

「 さ さ え 」

2012年 1月発行 情報誌 第38号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所:福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyougunit@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目 13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

【商品名】 床ずれ防止用ハイブリッドマットレス

「アルファプラ ソラ」

床ずれ防止には体圧分散+ケアが重要にもかかわらず、これまでのマットレスは体圧分散ばかりを求めていました。医療やテクノロジーの進化にともなって常識も進化します。これからは、ポジショニングや介助のしやすさ、ご利用者のQOLなどを総合的に考慮したマットレスをお選びください。アルファプラ ソラは安定性と寝心地の良さを持つ静止型マットレスをベースに、リスクの高い腰部には新方式のエアセルを搭載。双方の利点を兼ね備えた、ポジショニングなど最新のケアがしやすいこれからのマットレスです。【発売元】(株)タイカ



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

ホスピスは社会運動である

NPO 福祉用具ネット理事長 豊田謙二(熊本学園大学教授・博士)

古代ギリシャの神殿、デルポイの神殿の入り口には碑文が掲げられていた。そこにはこう記されていたという。「汝自身を知れ」。その含意は、人間は死すべき者、だから傲慢であるな、身の程を知れ、と翻訳されてきた。今日の科学技術盲信に接するとその碑文は時と空を超えて私に迫る。その有限なる人間に抗して、唯一、神は無限なのである。

また、古代ギリシャでは、死ぬことは人々のなかから去ることであり、誕生とは人々のなかに現れることである、と考えられていた。とてもわかりやすく、その解釈は身体に沿うような自然的である。その古代ギリシャの世界では、死とは、生とは、また幸福とは、というように人間の根本的なことが問われ、そして議論された。だから、後のヨーロッパは古代ギリシャを自らの「古典古代」に位置づけたのである。

さて、死ぬことは別れであり、一方で去る人が、他方では送る人がいる。だから、悲しみは逝く人と送る人の双方に生まれる。ヨーロッパでは中世以来、そうした悲しみを教会や修道院が支えた。その歴史は12世紀以降約 800 年の歴史を刻む。その時代と現在との根本的な違いは、今日では死は、多く病院のベッドにあることなのだ。

ホスピスが社会運動である理由は、病院での延命措置への対抗であり、同時に死に赴く人の不安や苦しみ、そして送る人たちの悲しみに添い、和らげることである。ホスピスでの支えはチームアプローチを基本とする。そのチームアプローチは、一人ひとりへの添いのために、そして「その人らしく」を実現するにはとても重要なことである。そのチームアプローチは、死に逝く人の希望や意思に添って支援が展開される。

私はドイツの研究者とともに、認知症ケアに関する調査研究を 1996 年から継続しているが、ドイツでは老人ホームにホスピスが併設され、日本では病院にホスピスが併設されていることに気づいた。その理由について考えてみた。介護専門職の特性の違いなのか。ドイツでは老人介護士が、日本では介護福祉士が担当するが、前者は実習において医療的な臨床を積む。後者では医療知識は相対的に低く、医療行為はできない。だとすれば、医療系の職員の勤める病院系列が設置しやすい。でもこの理由の妥当性は低い。老人ホームのホスピス棟に看護師を配置すれば解決する。

では何か。利益率が一つの要因。日本の病院は利潤を追求するが、ヨーロッパでは圧倒的多数の病院は非営利形態であり、また州や市や村立の公的経営である。だから「ホスピス」という利幅の薄い分野でも抱えきれるのである。もう一つは、ホスピスは医療分野ではない、というヨーロッパ文化における基本的認識である。上智大学の A.デーケンさんが、「世界のホスピス」というビデオのなかで音楽セラピーの事例を紹介している。

その女性は 39 歳、ガンに侵され余命幾ばくもない、と告知された。母にとって最も気にかかるのは4人の子どもである。音楽セラピストと相談して、4人の子どもそれぞれに母の思い出の歌を遺すことにした。毎日、録音のためにテープに向かって歌った。一本で2時間のテープを4本作成した。そのテープを遺して母はみんなのなかから去って逝った。子どもたちは母の死に泣いたが、テープのなかの母の声に励まされたという。間もなく去りゆく母を主人公にして、チームアプローチで支えたのである。

ホスピスでは主人公、つまり指示・命令するのは死に逝く人である。その指揮のもとに医師や専門職が支援する。だが、病院では医師—看護師—患者、という指示・命令系統が強固につくられている。とくに、精神科医療でのその上下関係は強烈である。

ホスピスは看取りだけではない。去りゆく人と送る人、そして専門職のチーム、そのメンバーたちの一緒による協働である。その目的は死に逝く人の生活の質を改善し、その遺族の悲しみに添うことである。だから、ホスピスは、医療的延命に抗する社会的運動なのである。

自動採尿システム【尿吸引ロボ ヒューマニー】を上手に使うために

その9 男性パッドが発売開始

NPO福祉用具ネット 事務局 大山 美智江 (看護師・ケアマネージャー・福祉用具プランナー)

男性パッドがいよいよ発売開始に

いよいよ、ヒューマニーの男性用パッドが11月から発売開始になりました。

従来の男女共用の兼用パッドと使い分けをすることができるようになりました。男性だから男性用を使うというわけではなく、各々の身体状況に合わせて使い分けができると考えた方が良いと思います。

男性パッドは袋状になっています。陰茎部を差し込んで使用することになりますので陰茎の長さによっては袋の中に安定せずに抜けてしまう恐れがあります。

排泄習慣などによってもご本人様の意向もあります。しかし、排便などは気にせずに使用できるというメリットがあります。

使用前に陰茎の長さや体動、これまでの排泄ケアの状況などの情報を確認した上で適切なパッドを選択し、装着時の配慮点など見極めて使用して欲しいと思います。

【見極める】といえば、これまでにヒューマニーを導入してうまく使えなかった方がおられるとしたら、それは事前のアセスメントが不十分であったり、装着の仕方の配慮が欠けていたり、などの要因が失敗になったと考えられます。

例えば、①これまでのオムツの当て方、使用しているオムツの種類、②漏れ位置、③ベッド上での動き、体位変換の状況、④車いすなどへの移乗方法や、⑤認知症に起因する問題行動の有無、⑥排便状態などの情報が必要です。

さらに装着をする介護環境の整備も重要なポイントとなります。

家族介護者が高齢であったり、機器の取り扱いが苦手な方の場合は訪問介護との組み合わせでヒューマニーの装着を検討することになるでしょう。

その場合には、介護職の方には専門職としてヒューマニーを装着できる技術が求められることとなります。仮にも介護現場の方はホームヘルパー、介護福祉士、看護師などスペシャリストです。個々の事例に応じて、専門職としての知恵と技術が求められることは当然のこと。

このコーナーで、度々申し上げていますがヒューマニーは百人百様に工夫が求められる製品のひとつです。そこで、「うまくいかない。大変だあ〜。」と逃げないでいただきたいのです。

オムツの当て方に問題があって尿もれを起こして

も、その問題の反省をしないままに失敗を繰り返しているとしたら、ヒューマニーも上手に装着できないのではないかと思います。

私もこれまで多くの事例にヒューマニーを装着してきました。最初に、一度や二度の漏れの失敗があったとしても、すぐに対策を講じて成功に導くことができました。あきらめない対応と個々の状況に合わせた工夫で解決できています。

従って、失敗して使えないと評価する前に、

①その事例について、最初に適正判定をする場合にヒューマニーを使える対象者であったか、適正判断を間違っていないか？

②失敗の原因をきちんとアセスメントできているか？

③対策をよく検討もせずにあきらめていませんか？

と問いかけたいと思います。

(次回は新しい男性パッドの上手な当て方のポイントをご紹介します。)

特殊尿器が介護保険レンタル品目に！

ヒューマニーなどの特殊尿器はこれまで介護保険制度の中の特定福祉用具購入品でしたが、貸与品目になる方向で動いています。ヒューマニーもその対象品としてメーカーはその対応に取り組んでいます。

ヒューマニーは既に発売となって3年目になります。がまだまだ知られていないのが現実です。

しかし、ヒューマニーが介護保険のレンタル品になるとその制度の変更に伴い、ケアマネはじめ多くの介護職へ制度の周知徹底が図られることとなります。しかし、オムツの当て方でさえ、うまく当てられない状況の中、というよりもオムツの正しい当て方を知らないということに気付いていない現実の中で、果たしてヒューマニーを上手に使用できるのだろうかと不安に感じています。

つまり、介護保険制度でレンタル品になり、要介護者や家族介護者がヒューマニーを求めても対応力が現場にはまだまだ足りないという現実です。

今から多くの介護職の皆さんに、オムツの当て方さらにヒューマニーの上手な当て方について理解していただけることを切に願っています。

「私の事業所は、ヒューマニーなどの福祉用具を上手に使えるヘルパーが揃っています。」そんな介護事業所が増えることを期待しています。(つづく)

西日本国際福祉機器展の報告
 (平成23年11月18日～20日開催)



排泄や入浴など最低限のケアから一歩前進
 【いつまでもきれいでいたいを気持ち】を支援し
 ませんか！



【美容リハビリ講座と実演】
 協力 ナリス化粧品 美容部長 谷都美子氏



【ロボットスーツ HAL の紹介】



農協共済 別府リハビリテーションセンター



【摂食・嚥下障害のある方の介護技術】



介護技術セミナー【起床から就寝までの一日の生活の流れの中
 での介護技術を考える。】



【ヒューマニー男性パッドの紹介】 ユニ・チャームヒューマンケア(株)



(株)タイカ
 【ポジショニングクッションの使い方】

在宅介護を振り返ってみたい

～私の13年間～その4 在宅生活の決断

宮若市 佐野 征子

これまでのあらすじ

平成10年11月29日58歳で交通事故に遭遇。瀕死の状態から奇跡的に回復。その半年後の平成11年5月くも膜下出血にて再手術。一進一退の状態を繰り返しながらも次第に経過も安定し、平成12年12月末に始めて試験外泊に挑戦。平成13年5月27日の退院までに5回の試験外泊を経験し、一大決心で退院を決断することになった。

迷いの中で、在宅介護という大きな決断をせざるを得ない状況での選択でした。

引き受けてくれる病院もみつからず、医師からも、「この患者の治療をできる病院を知りません。」とか、「ベッドは空いているけれど6ヶ月を過ぎているからお断りします。」などとも告げられました。

周りには3ヶ月毎に転院していく患者も多くいましたので一大決心をして我が家に連れて帰ることにしました。

主人がまだ現役の頃、「もしも認知症などで介護が必要になったら家族介護は大変だから施設にいらていよ！」とっていました。

主人は、これまで真面目に公務員生活をおくり、職場と家を往復し、時々ゴルフ場でプレーを楽しむ生活、車好きでカーディーラーの所に遊びに行ったり、とても穏やかな日々を過ごしておりました。

「孫が生まれたら一緒に遊ぶんだ」と楽しみに庭の芝の手入れに汗を流したりもしていました。

58歳で突然に経ち切られてしまった主人の人生、今度は家族でできる限りのことをしてあげようと決めました。

手探り状態で昼夜なしの在宅介護人生が本当にスタートすることになった訳です。

唯一、主人の笑顔が私への救われるプレゼントなのです。

当時、スタートしたばかりの介護保険制度を利用することになりました。

自宅に連れ帰ったものの主人は意思表示もできず、身体的には大きな赤ちゃん状態でしたので、ベッドから起居動作の介助も全介助で、とても大変で私の身体は悲鳴をあげました。

食事作りと食事介助、排泄介助、更衣、シーツ交換など昼夜を問わない介護生活で不眠状態が続きました。これでは大変とデイサービスを利用することにしました。デイサービスに行っている時間が唯一のホッとできる時間となりました。とはいっても、家事などの雑務が多く、なかなか身体を休める時間はありませんでした。デイサービスへの送迎時に会う介護仲間とのコミュニケーションはとても貴重な情報交換の場でした。

いつも、このままの在宅生活を続けていて良いのだろうかと思いつつ、もっとどこかの病院に入院をしてリハビリをさせたいという思いも強くありました。その一方では在宅での楽しみも味わわせてやりたいと思いました。

デイサービスの送迎時は夫婦ふたりのドライブです。話しかけたり、途中の風景を眺めたり、そんなひとつひとつの行為も刺激となり効果があるのではないかと思ったりしました。時には親類の家に出かけたり、近所の友人宅に車いすで散歩したり、以前に2人で散歩していたコースを廻ったり、桜の花の時期など四季の景色や匂いや風を楽しみに連れ出したりもしました。

カウンターの低い、お寿司屋さんで“にぎり寿し”を握ってもらったりもしました。

リフトの設備の整った障害者対応の温泉にも家族で出かけたリ。。

また、以前の主人の職場にも連れて行きました。

今考えると、とんでもないことをしていたような気がしますが、当時は必死でした。

もちろん、病気の方も定期的にマイカーで検査を受けに通院もしていました。

デイサービスでは連絡ノートで相互の状態報告をしながら、時々ではデイサービスでの主人のようすを見に出かけたりもしました。

私の体調が悪いときは、ショートステイを利用しながら介護の日々をつないで参りました。そんな時、主人がさまざまな場所で見せる表情が唯一楽しみでした。笑顔がでたり、頷いたり、簡単な言葉がでたり、その変化が日々の介護に対する私への最高のプレゼントのように思えました。

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」

(その28)

九州日立マクセル(株) 技師長 坂田 栄二
(NPO福祉用具ネット副理事長)

“知事”の答弁は大きな味方

平成16年9月の県議会で、ある県議会議員が、
「福祉用具をせっかく開発しても、広く普及させていく方法が見つからない。特に、今回の褥瘡予防マットは産炭地域振興のための基金によって生み出されたものであります。この福祉用具の製作や販売が軌道に乗りますよう、県としても支援すべきと思われるのですが、・・・。」

との質問は、販路に悩んでいた大山にとって、大きな光となった。

この質問に対して、県知事の答弁は、

「健康福祉産業の問題についてでございます。県立大学は、地元の医療関係者、特に看護師さんあるいは関係の産業界と長い間、協力、研究をしまいいりまして、健康福祉用具をつくっていかうという努力をしまいいりました。そして、その中心になっておりますのがNPOでございますけれども福祉用具ネットでございます。そして、平成十四年度から具体的に製品化をしております。一つは床ずれ予防エアマット、もう一つは介護シャワーといったことでございます。そして、さらにこの研究成果を販売をするという今、段階になっているわけございまして、現在、製品化を担当いたしましたメーカーにおきまして、PRとか販売態勢の具体的な検討が行われ、間もなく販売されるという段階であります。これは県立大学あるいは関係者の努力の大きな成果であるというふうに思っております。県の方では、早速、クローバープラザにおきまして、これらの用具の紹介を行っております。また、これまでの研究から事業化までの一連の取り組みに対しましては、産炭地域振興センターの基金を活用して支援をしまいいったわけでございますが、さらに販売段階ということになります。この点につきましても、どのような形で応援ができるか、よく検討をしまいいる考えであります。」

というものだった。

答弁のここが素晴らしい

この答弁の中に、大きくて重要なポイントが3つある。

まずその第一が、県議会の中で「NPO福祉用具ネット」という固有名詞が取り上げられたことである。県議会レベルで、1企業の名前が取り上げられることは稀であるが、やはり私たちの組織が特定非営利活動法人であるからであろう。

大山は公に認められたうれしさを感じていた。

NPOは、設立して2年を経過したに過ぎない。だからこそ、まだ「ちっぽけ」で人に知られていないこのNPOの名前が、県知事の口から出たことに大きな意義を感じていた。

2つ目のポイントは、具体的な開発テーマが県議会であちゃんと紹介されたことである。

当時、福岡県産炭地域新産業創造等基金を活用して開発を進めていた企業は、20社以上にのぼる。その中から、NPOの個別商品の名前が注目されたことは驚きとともに喜びであった。

3つ目のポイントは、基金による支援だけでなく、その成果の販売段階についても応援できることは何なのかを検討してくれることを、答弁していただいたことである。

これは大きな販売支援であると大山は明るさを感じた。

動きの速い県の対応

県の動きは早かった。2日後に電話がかかってきた。大山と坂田は、すぐに飛んで行った。県は知っている施設があるということいくつかの施設を紹介してくれた。

それからという毎日は、施設めぐりである。

大山は、看護師時代の訪問看護で、この種の福祉用具の採否には、しっかりと販売実績が必要であり、その上、品質上のトラブルが無いことが重要であることを知っていた。そのためには、誰かにまずは買ってもらわなければならない。

初めての“営業”

大山の販売方法はこうだ。

施設にあらかじめ電話し、施設長や事務長に、商品紹介をしたい旨を伝える。この時「県の紹介である」と言うたいてい了承してくれる。ありがたい話である。仕事を終えた夕方に、看護師や介護士を集めていただいおき、そこでプレゼンをするのである。車一杯になる大きな床ずれ防止マットと、洗髪シャワーのサンプルやバケツを載せ、コピーした説明資料を山と積んで出かける。もちろんNPOの車は無いから、マイカーの後部座席を全部倒し、決して広くないスペースに押し込む。

現地に早めに到着し、介護士さんたちが集まる前に椅子を並べ、説明できるように、ベッドにサンプルをセッティングする。次にプロジェクターをセットしパソコン画像がちゃんと映るか確認する。これだけで1時間近くかかる。

そのうちにぞろぞろと介護士さんたちが集まってくる。準備をしている横から、看護師さんたちも関心があるのか、ベッドに近づいてきて、かわるがわるに指でマットを押しみて、

「わー、何か違う。これまでのと違うみたい・・・」
触っただけでも違いが判るようである。

いざ、始まる。まずは大山のあいさつから。だんだん熱を帯びてくると方言を交えながらの話しぶりであるが、地元の人には別に違和感を感じていないのか、真剣に聞いている。

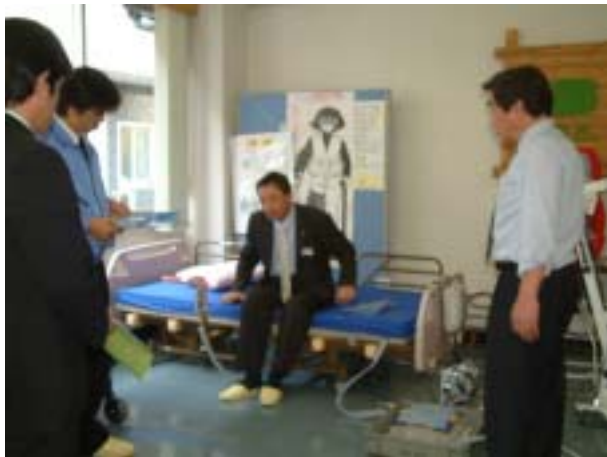
続いて、

「開発者から、構造について説明してもらいます。」
との紹介で、帰山の登場である。

帰山は、ニコリともせず、いつものマイペースで話す。これが良いのか、聞いている側にも真実味が受分に伝わる。彼は別に怒っているわけでもないのだが、その低い声と無表情な顔が、真剣味を伝えるにはちょうど良いようである。

これは脈があるぞ

最後に実際に寝てみて体感をしてもらう。口々に「これまでのようにフワフワしてなくて、しっかりしているんで、寝返りしやすいね。」
「体を拭いてやる時や、おむつ交換などもし易いね。」
という、NPOが狙った開発コンセプトを感じ取ってもらえたようだ。



後ろで、それを聞いていた施設長がやおら腰を上げ、
「そんなにいいのか？」

と、ゆっくりとベッドに近づき、マットの表面を手で撫で腕組みをした後、介護士さんに進められるように、腰を掛けてみた。

体を左右に揺すってみて、次に腰を少し浮かし、手であちこち強く押してみる。まるでプッシュアップしているようだ。その次に、上着を脱いでマットの上に横になった。いつも大山がするのと同じように、右側、左側と交互に寝返りをする。しかも、お尻の下に手を差し込んで圧力を感じ取っているようだ。

「確かに、今までと違うな・・・。」

「是非、試しに1つ買ってくださいよ。」

看護師の1人が言った。

しかし施設長は、すぐには“うん”とは言わずに腕組みをして考え込んでいる。

現場は欲しがっている

“これはいけるぞ。”と大山は、期待した。それを裏付けるかのように、介護士さんたちは、

「ねえ、これ、買ってくださいよ！あの利用者だったらきつと、うまくいくと思うよ。」

「丈夫そうだし、失禁にも強そうだから・・・」
介護士さんたちの強いバックアップに、帰山もときめいた。

施設長は、

「うーん・・・、考えてみるか！」

そう言い残して、大山にお礼のあいさつをして部屋を出て行った。

大山は、その後ろ姿に、

「よろしく願いしまーす。」

と大声で、お願いをした。

現場の人たちは、今何が必要か十分理解している。だからこそ、このマットのコンセプトに共感出来たのではなからうか。

大山たちは、期待に胸ふくらませ、後片づけを進めている。いつもより、手際が良い。慣れたせいというか、少し先が見えたからに違いない。

現場の人たちが認めてくれる力強さを感じた大山は、

「つぎの会場もこの方法で説明しようよ。」

と、ハンドルを握る帰山に話しかける。

「俺の今日の説明は、あれでよかったか？」

自信なさ気に言う帰山に、

「あんたのあの話しぶりが良いのよ。何を言っているのかよく判らないから皆が真剣に聞くのよ。」
褒められているのか、けなされているのかよく判らないとでも言いたげに、

「そーかの一・・・。俺にはあれしか出来んからの一」
この時から、いろんな施設めぐりの、「大山・帰山コンビの珍道中」が始まるのである。

東へ西へ

NPO事務室の壁には、カレンダーにスケジュールが貼ってあり、赤字と青字で施設名が書き込まれている。青字は、プレゼン交渉中のところ、赤字は訪問確定しているところが一目でわかる。

東は、東京から南は鹿児島まで書き出されている。もはや、福岡県内にとどまらない。福岡県から紹介を受け、訪問説明の技を習得した今では、全国の声のかかるところは“どこでも参上”の意気込みである。しかし、人手が足りない。大山は、

「ところで、あんたん所の営業の人はいつから動けるん？」坂田にとっては爆弾発言であった。



謹賀新年

今年もよろしくお願ひ致します。

平成23年10月～12月までの事務局の動き

■ 以下の研修会も終了いたしました。

第7回	10月22日13時30分～15時30分	介護職のためのスキルアップセミナーその③ 排泄ケア ～オムツの上手な当て方について～
第8回	11月26日13時30分～15時30分	介護職のためのスキルアップセミナーその④ 家事援助で役立つ治療食の調理のポイント

西日本国際福祉機器展に出展

福祉用具活用セミナー及び介護セミナーを開催！

日程：11月18日(金)から20日(日)3日間

会場：西日本総合展示場新館

NPO福祉用具ネットが主催・共催するセミナーは以下のとおり。

【NPO福祉用具ネットのブース内のセミナー会場】

■11月18日

- ・自動採尿システム 尿吸引ロボ ヒューマニー男性パッドの紹介
- ・尿吸引ロボ ヒューマニーの上手な活用法と使い方
- ・ロボットスーツHALの紹介
- ・摂食・嚥下障害のある方の介護技術
その①食事前にしておきたい大切なケアとは！
- ・ポジショニングクッションの上手な使い方

■11月19日

- ・介護技術セミナー起床から就寝までの一日の生活の流れの中での介護技術を考える
- ・自動採尿システム尿吸引ロボ ヒューマニー男性パッドの紹介
- ・尿吸引ロボ ヒューマニーの上手な活用法と使い方
- ・ロボットスーツHALの紹介
- ・ポジショニングクッションの上手な使い方

■11月20日

- ・自動採尿システム尿吸引ロボ ヒューマニー男性パッドの紹介
- ・尿吸引ロボ ヒューマニーの上手な活用法と使い方
- ・ロボットスーツHALの紹介・デモンストレーション
- ・摂食・嚥下障害のある方の介護技術
その②誤嚥させない上手な食べさせ方とは！
- ・ポジショニングクッションの上手な使い方

【会場内イベントスペースA会場】

11月18日・19日午前10時30分～12時

- ・美容リハビリ～いつまでもきれいでいたいと思う気持ちを大切に！～ 講演とブースで実演

11月20日14時～15時

リフトの使い方と吊り具の選び方

11月19日13時～14時 14時30分～15時30分

・摂食・嚥下障害のある方の介護技術

その①食事前にしておきたい大切なケアとは！

その②誤嚥させない上手な食べさせ方とは！

【会議室のセミナー会場】

11月19日・20日午前・午後1日2回

キネステティクス®講座

NPO福祉用具ネットブース出展協力企業

- ①九州日立マクセル(株)
シニア向け肌ケア用品
- ②ユニ・チャームヒューマンケア(株)
尿吸引ロボ ヒューマニー
- ③三ツ和金属株式会社
屋内用車いす
- ④福祉SDグループ
洗髪シャワー
- ⑤別府リハビリテーションセンター
ロボットスーツ HAL
- ⑥(株)タイカ
アルファープラ ソラ
- ⑦ナリス化粧品
シニア化粧体験コーナー
- ⑧福岡県立大学福祉用具研究会
活動紹介パネル
- ⑨龍宮株式会社
パシーマ製品
- ⑩ロボフューチャー株式会社
筋電義手
- ⑪NPO福祉用具ネット
出版物の紹介と活動紹介パネル

平成23年度今後の研修会
今年度最後の研修会となります。

第9回 平成24年2月24日・25日(2日間)

オムツフイッター3級研修会

会場は福岡市博多駅近くの麻生塾です。

募集は定数になりましたので締め切りました。

平成24年度の新会員募集と

会員更新手続きのお願い

■ NPO福祉用具ネット会員の新規会員を募集いたします。

(年度は平成24年4月から平成25年3月まで)

■ 平成24年度会員継続手続き開始

平成24年度の更新手続きと会費のご入金をお願い致します。引き続きご支援下さいますようお願いいたします。

